

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【地震一口メモ】

「全国地震動予測地図2017年版」について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

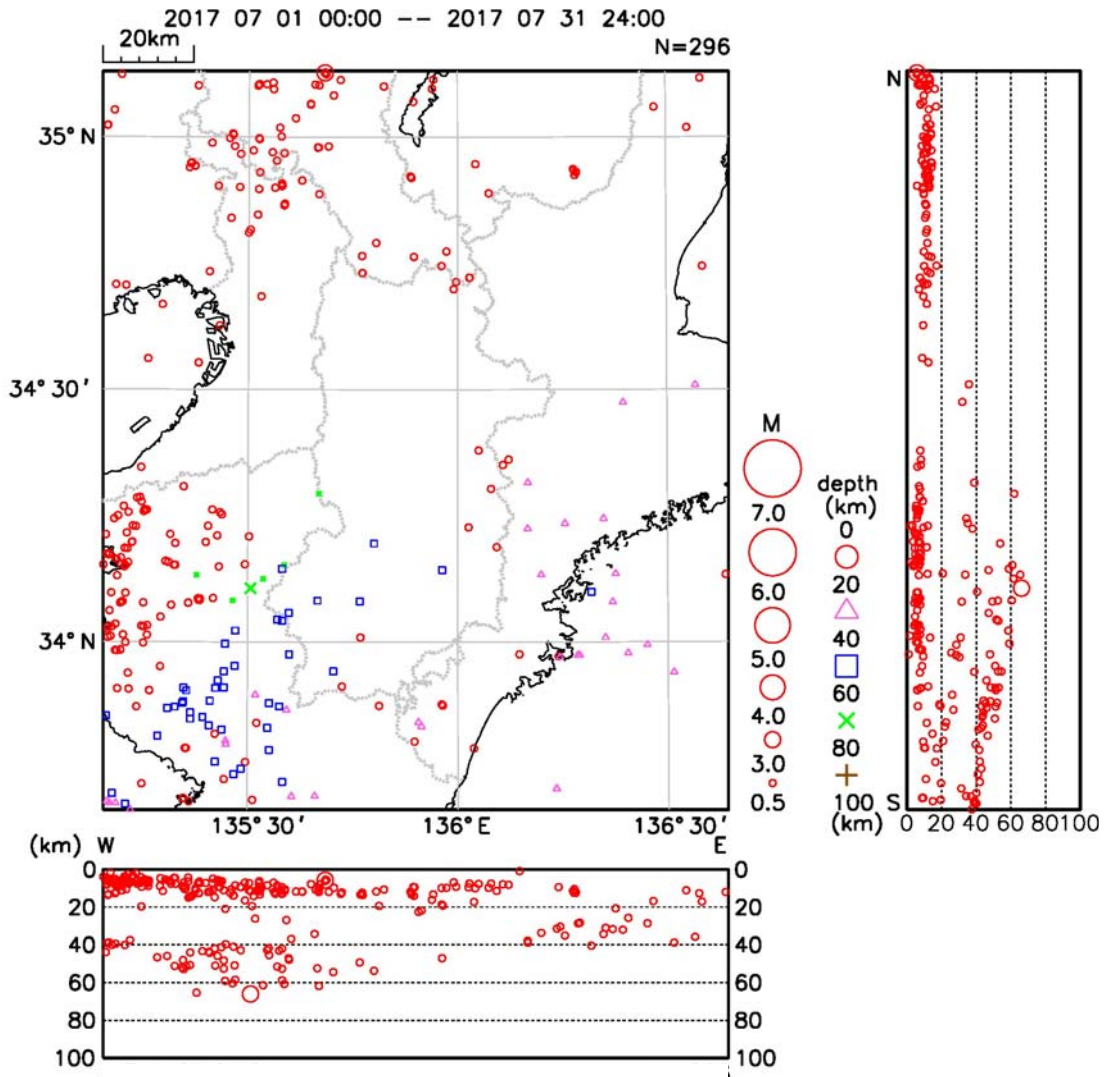
※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2017年7月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で7月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

～「全国地震動予測地図2017年版」について～

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、前回（2016年6月）から1年以上経過したことや、新たに得られた知見等に基づき、評価基準日を2017年1月1日とした『全国地震動予測地図2017年版』を作成公表しました。

一例として、今後30年間に震度5強以上の揺れに見舞われる確率（平均ケース・全地震）を図に示します。日本全体を概観すると、地震の影響を受けない地域はありません。また、奈良県を含む近畿地方中部及び南部では、南海トラフ地震や内陸の活断層の影響を受け、ほぼ全域で確率が26%以上になっています。

「地震ハザードステーション（J-SHIS）[<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>]」では、奈良県の拡大図も見ることができ、この他の様々な条件や関連情報もご覧になれます。

これらの資料を活用し、地震の危険性の再認識、防災意識を高めるとともに、今後の効果的な地震防災対策を検討する上での基礎資料としてください。

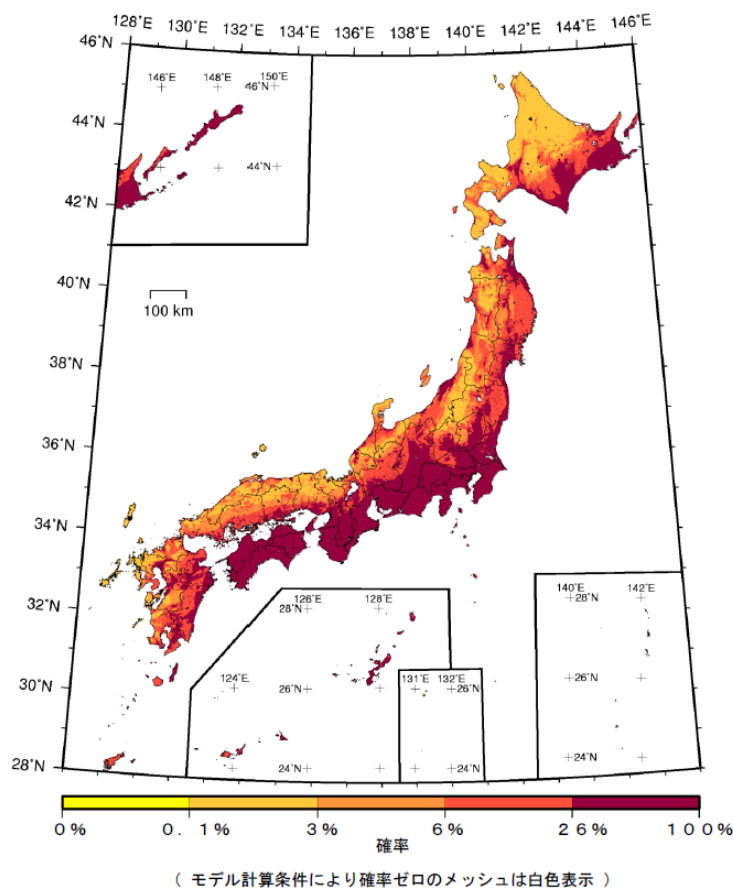


図 確率論的地震動予測地図

今後30年間に震度5強以上の揺れに見舞われる確率（平均ケース・全地震）
[地震調査研究推進本部「全国地震動予測地図2017年版」より引用]